

北海道大学 緑のピアガーデン2014を開催

お知らせ

- ・企画展示「北方資料からみる「江戸・蝦夷・ロシア」交流展」
第1期：漂流民大黒屋光太夫の帰還とラクスマン来航 開催中
- ・書籍『学船 北海道大学 洋上のキャンパスおしよろ丸』出版



1 教職員の表彰制度について

全学ニュース

- 2 北海道大学 緑のピアガーデン2014を開催
- 2 北海道大学入試説明会を実施
- 3 平成26年度北海道大学公開講座「安全・安心な社会と暮らしを創る」が終了
- 4 平成26年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙
- 4 北方生物圏フィールド科学センター 星野洋一郎准教授が独立行政法人日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受賞
- 5 公共政策学連携研究部 遠藤 乾教授が読売・吉野作造賞を受賞
- 6 北大フロンティア基金
- 8 平成26年度 公益財団法人北海道大学クラーク記念財団助成事業の決定
- 10 衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会が本学を視察
- 11 北洋銀行ものづくりテクノフェア2014に出展
- 11 中学生が電子顕微鏡を体験
- 12 COI-T「食・運動・健康・医療をつなぐ知で家庭に拓く次世代健康生活創造の国際拠点～『食と健康の達人』を創る～」参画機関会議を開催
- 13 「出入国管理制度説明会」を開催
- 13 「海外大学院留学説明会」及び「交換留学説明会」を開催
- 14 平成26年度交換留学生に対する出発前オリエンテーションを実施
- 15 アイヌ民族の文化に触れる「ホリデー in ひだか」を開催
- 16 化学物質取扱講習会を開催
- 17 平成26年度北海道大学情報セキュリティセミナーを開催

部局ニュース

- 18 水産学部附属練習船おしよる丸V世の竣工披露式・祝賀会を挙
- 19 教育学研究院が韓国ソウル国立大学校師範大学と覚書を締結
- 19 総合博物館開館入館者100万人達成
- 20 国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院が英国シェフィールド大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催
- 21 スラブ・ユーラシア研究センターが国際シンポジウム「危機の30年」を開催
- 22 文学研究科「書香の森」にて絵画作品解説会を開催
- 23 理学部で「がん細胞の動きを止めろ！～がん細胞のタンパク質を光らせよう～」を実施
- 24 北海道大学納骨堂慰霊式を挙
- 24 工学系部局で救急救命講習会を実施



緑のピアガーデン2014



アイヌ民族の文化に触れる「ホリデー in ひだか」

- 25 附属図書館が保健科学研究院で博士論文のインターネット公表に関する説明会を実施
- 25 北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施
- 26 北海道大学病院で「第49回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施
- 27 総合博物館で夏季企画展示「学船 洋上のキャンパスおしよる丸」札幌展示が開幕
- 28 総合博物館でカルチャーナイト2014「チェンバロと星空の夕べ」を開催
- 29 総合博物館で学生発案型の夏のイベント「Hello, Museum!」を開催
- 30 総合博物館で大学院生が企画・開発したミュージアムグッズの販売開始
- 31 遠友夜学校関係資料を札幌市から大学図書館で受贈
- 31 平塚直治関係資料を大学図書館で再受贈
- 32 瀧谷紀三郎旧蔵写真を大学図書館で再受贈
- 33 旧制高等学校・大学予科の徽章を大学図書館で受贈

お知らせ

- 34 企画展示「北方資料からみる「江戸・蝦夷・ロシア」交流展」第1期：漂流民大黒屋光太夫の帰還とラクスマン来航 開催中
- 35 書籍『学船 北海道大学 洋上のキャンパスおしよる丸』出版

レクリエーション

- 35 平成26年度学内バレーボール大会の開催

諸会議の開催状況 37

学内規程 38

研修

- 39 平成26年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

表敬訪問 40

人事 41

- 43 新任教授紹介

訃報

- 44 情報環境推進本部情報推進課係長 伏見 美德 氏



水産学部附属練習船おしよる丸V世一般公開



総合博物館で「Hello, Museum!」 「望遠鏡でのぞく世界」



理学部「ひらめき☆ときめきサイエンス」実験操作の説明



大学図書館で遠友夜学校資料を受贈 遠友夜学校女子生徒作文集「文の園」

表紙：おしよる丸V世（関連記事18頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景⑰ 北限の鮎釣り

教職員の表彰制度について

理事・事務局長 村田 直樹



表彰制度の重要性

大学運営のツールとしては、規則の制定、予算措置、評価、監査等多様なものがありますが、表彰制度もその一つであり、近年その重要性は増しています。

今日、グローバル化の波が大学に押し寄せてきています。海外の大学では、様々な表彰制度を設けて、教職員を顕彰しています。このことは、本学と国際交流協定を締結している大学と教員や学生の交流をする際に、先方大学の教員等の履歴に「〇〇賞受賞」といった記載があるのをよく目にするということからもご理解いただけると思います。表彰を受けていることが業績として評価される、そのような風土・文化が海外では根付いています。

本学においても、表彰制度を整備して、教員等が海外で活動する場合にその受賞歴を明らかにして、その業績を適切に示せるようにすることが大切であり、その意味において、そうした取組はグローバル化対応でもあると言えます。また、教員以外の職員についても、その企画力や専門性を向上させることの必要性が指摘されている今日、職務への取組を積極的に評価して顕彰することが重要になっています。

本学における表彰制度

本学においては、法人化前から、学生に対しては、クランク賞等多様な表彰制度が設けられていましたが、教職員については、永年勤続表彰など一部に限られていました。平成16年の法人化を契機として、本学では、永年職務に精励し功績のあった方に加えて、職務上における顕著な功績等があった方や職務外での人命救助やボランティア活動等により職員の模範となる善行を行った方に対して、表彰を行う制度を設けました。

(1) 教員の表彰制度の充実

平成23年度からは、教育活動及び研究活動を通し、優れた功績を上げた教員に対して表彰する「総長賞」を設けました。同賞は、教員の教育研究意欲の向上を図り、もって本学の活性化と更なる発展に資することを目的とし、顕著な教育成果のあった方を表彰する「教育総長賞」と、顕著な研究成果のあった方を表彰する「研究総長賞」の2種類となっています。現行では、エクセレント・ティーチャーズに選出された方や、優れた論文等を発表し、将来、世界的な発展の期待される方等が対象者となり、教育と研究を併せて毎年15名程度が表彰されています。

(2) 教員以外の職員の表彰制度

平成25年度からは、新たに教員以外の職員を対象として、業務改善等の取組を通し、優れた功績を上げた職員等を表彰する「教育研究支援業務総長表彰」を設けました。同賞は、職員の業務改善等への意識を高めるとともに、更なる業務処理の合理化・効率化・迅速化に役立てることを目的としており、業務改善等により貢献した場合と、それに関する提案を行った場合に、それぞれ職員個人又は業務組織を表彰するものです。主な対象となる功績としては、1) 諸経費等の節約により、コスト低減に著しい貢献があったもの、2) 業務効率の増進に著しい貢献があったもの、3) 教育研究にかかる技術支援に著しい貢献があったもの、4) 診療にかかる業務改善に著しい貢献があったもの、5) 船舶の運航にかかる業務改善に著しい貢献があったもの、また、これらに関する提案のうち、貢献が期待できるものとなっています。選考は、事務部門、技術部門、医療部門、海事部門に区分して行い、その中から最優秀賞（1件）、優秀賞（原則、各部門1件）、奨励賞（10件以内）を決定します。初年度は各賞併せて15件が表彰されました。

提案に関する表彰については、本年度からの募集となっており、これについては、提案理由、具体的な手順、これまで当該提案が実施されなかった要因及び提案により得られる効果（費用面も含む）等を踏まえ検討を行った後、本年10月頃に決定する予定です。最優秀提案賞（1件）及び優秀提案賞（5件程度、部門の区分には拘らない）の選定を基本としつつ、若手職員（主任相当以下）の企画力を向上させる観点から、若手職員による優れた提案があれば、特別に表彰することとしています。

以上のように、本学では近年、表彰制度の重要性を踏まえて、その充実を図ってきたところですが、現在、山口佳三総長の指示を受けて、教員を対象とする表彰制度の拡充について検討が行われています。今後とも、他のツールと併せて、より円滑な大学運営を進める上で、表彰制度を活用していくこととしています。

■全学ニュース

北海道大学 緑のビアガーデン2014を開催

今年で9回目となる緑のビアガーデンを、7月29日（火）～8月1日（金）の4日間開催し、無事終了しました。天候に恵まれ、気温・湿度の高いビール日和が続いたことにより、多くの皆様に緑の中でビアガーデンを楽しんでいただくことができました。

今回のフードメニューには、北大農場の協力により研究成果のトマトや西洋野菜チコリと、静内研究牧場の協力により牧場で育った牛肉で作ったローストビーフをサラダに使用し、来場された方々に「北大の味」をご賞味いただくことができました。

9年目を迎え、北大キャンパスの夏の風物詩として地域に定着し、毎年楽しみにして下さるお客様が増え、賑わい溢れるビアガーデンに成長したことを実感できる4日間でした。

（総務企画部広報課）



爽やかな緑の中で



北大の夕べを楽しむ皆様

北海道大学入試説明会を実施

7月24日（木）午前10時から、学术交流会館において、高等学校等の進路指導担当教諭を主な対象とした入試説明会を開催し、高等学校等87団体から132名の参加がありました。

説明会では新田孝彦理事・副学長から挨拶と本学の現状についての説明があった後、喜多村昇アドミッションセンター副センター長が平成26年度入試

結果の概要について説明を行いました。

その後、質疑応答が行われ、さらに説明会の一環としてアドミッションセンター教職員による個別相談会が実施され、総合入試等に関する質問が寄せられました。

（アドミッションセンター）



新田理事・副学長の挨拶

平成26年度北海道大学公開講座 「安全・安心な社会とくらしを創る」が終了

7月3日（木）から31日（木）まで、本年度の公開講座（全学企画）を情報教育館スタジオ型多目的中講義室において開催しました。

本講座では「安全・安心な社会とくらしを創る」をテーマに、自然災害や原発事故、食品偽装、さらには近隣諸国との領土問題など、私たちの安全・安心をおびやかす出来事が相次ぎ、ま

た少子高齢化や経済のグローバル化など、社会の持続可能性をリスクにさらす変化も勢いを増す中で、あらためて安全・安心を作り出すべく各分野でどのような研究や技術開発がなされているのか、また国際関係や経済の世界でどのような新しい動きが生まれつつあるのかを取り上げました。

全ての回を申し込んだ受講者は77

名、特定回だけの受講者は延べ14名でした。各回の講義終了後には受講者から熱心な質問が寄せられ、生涯学習に対する意欲の高さを感じられました。

最終講義の終了後には閉講式が行われ、6回以上出席した65名の受講者に修了証書が授与されました。

（学務部学務企画課）

各回の講義題目と講師

第1回「国境と人々の暮し」（スラブ・ユーラシア研究センター 教授 岩下明裕）

第2回「医学教育の国際的な標準化の動向とその課題」（医学研究科 教授 大滝純司）

第3回「アクティブ・エイジングのための健康体力科学

“運動で奏でようからだと心のハーモニー”」（教育学研究院 教授 水野眞佐夫）

第4回「健康の安心は口腔から 口腔の安心は唾液から」（歯学研究科 准教授 高橋 茂）

第5回「経済のグローバル化・脱工業化と地域通貨」（経済学研究科 教授 西部 忠）

第6回「エネルギーシフトの時代－天然ガスの台頭」（理学研究院 教授 鈴木徳行）

第7回「食品添加物の誤解」（農学研究院 教授 川村周三）

第8回「「ゲノム」を考える」（情報科学研究科 准教授 小柳香奈子）



質疑応答の様子



修了証書の授与

平成26年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行

7月15日（火）、情報教育館スタジオ型多目的中講義室において、平成26年度北海道大学新渡戸賞授与式を行いました。

新渡戸賞は優秀な学部生の育成を目的として平成17年度に設けられた制度で、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次生に対して、奨励金が給付されます。今年度は92名が受賞しました。

授与式は新田孝彦理事・副学長、西田久美子学務部長列席のもと、新田理事・副学長から各学部の代表者へ賞状が授与されました。

続いて新田理事・副学長から挨拶があり、新渡戸稲造博士の業績についてのお話と共に「今回の受賞を契機に、皆さんには自らの教養を積極的に深め、これからも大学生活をより有意義なものとし、世界に羽ばたく人間へと成長していただきたい」と激励の言葉を贈りました。

受賞者達は偉大な先輩の名を冠した賞の受賞者として、今後も勉学に一層励むべく、自覚を新たにしていました。

（学務部学生支援課）



賞状の授与



授与式の様子

北方生物圏フィールド科学センター 星野洋一郎准教授が 独立行政法人日本学術振興会 「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受賞

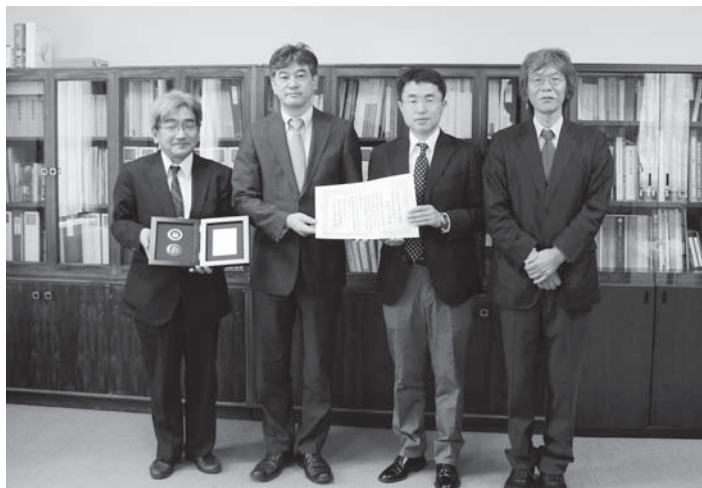
7月1日（火）、北方生物圏フィールド科学センターの星野洋一郎准教授が、独立行政法人日本学術振興会より「平成26年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を授与されました。

「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」とは、科学研究費助成事業による研究成果を、小・中学生や高校生に体験・

実験・講演を通じて分かりやすく紹介する（独）日本学術振興会の事業です。「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」は、継続的にプログラムを実施するなどした研究者に授与されるもので、今年度はこれまでに実施代表者としてプログラムを5回以上実施したことのある研究者が対象となりました。

7月16日（水）に川端理事室で行われた授賞式には、本村泰三北方生物圏フィールド科学センター長も出席し、川端和重理事・副学長より、星野准教授へ表彰状及び記念品が手渡されました。

（研究推進部外部資金戦略課）



左から大山卓也研究推進部長、川端理事・副学長、星野准教授、本村北方生物圏フィールド科学センター長

公共政策学連携研究部 遠藤 乾教授が読売・吉野作造賞を受賞

7月16日（水）、公共政策学連携研究部の遠藤 乾教授が、読売・吉野作造賞を受賞しました。

この賞は、読売新聞社の「読売論壇賞」と中央公論新社の「吉野作造賞」を一本化して平成12年に創設されました。政治・経済・社会・歴史・文化の各分野における優れた論文、及び単行本を顕彰し、日本を代表する論壇の賞として評価されています。

遠藤教授の著作「統合の終焉 EUの実像と論理」（岩波書店・平成25年4月刊）は、EU（欧州連合）の歴史や政策、さらには思想にまで踏み込み、その実像を多面的に描き出した力作として高く評価され、今回の受賞に至りました。

遠藤教授は、平成元年本学法学部卒業、平成3年同法学研究科修士課程修了後、平成4年ベルギー・カトリック・ルーヴァン大学で修士号（MA）を取得し、平成5～6年欧州委員会・未来工房専門調査員を経て、平成8年にオックスフォード大学博士号（D.Phil）を取得しました。その後、本学法学研究科助手、同講師、同助教授を経て、平成18年公共政策学連携研究部教授（国際政治）に昇任し、現在に至ります。

本学名誉教授の中村研一氏による受賞作の書評は以下のとおりです。

ヨーロッパ統合中興の祖ジャック・

ドロールを検討した本書3章「ヨーロッパ統合のリーダーシップ」（初出は平成6年。同8年のD.Phil論文の骨子）で、EU（当時はEC）活動の中心に心身を置いて認識することを介し、欧州統合現象への脱神話化を成し遂げ、また、対象を把握する深さと渉猟した史料の広さの両面で、我が国のヨーロッパ統合研究を画段的に変えました。

「補完性原理」の歴史的文脈を掘り起こした10章（初出は平成15年）、及び、統合の父ジャン・モネの国際活動の文脈を分析した2章（初出は平成21年）、さらに欧州統合の反対者マーガレット・サッチャーとドロールの対立を分析した4章（初出は平成21年）は、今後の統合研究者に読み継がれるべき古典です。遠藤教授は、これらの執筆と平行して、欧州統合の原史料を逐一発掘・翻訳した一大編著『原点ヨーロッパ統合史』（名古屋大学出版会、平成20年）の共同作業を推進し、我が国の欧州統合研究の発展基盤を確立しました。

上記以外の本書の8章の学知上の課題は、統合過程（「大文字の統合integration」）を主権国家の拡大ないし代替の構想とみなす言説体系からの転換です。また、主権国家を記述する政治術語をそのまま、ないし、反転させて統合政治に援用する慣行からの脱

却です。かつて存在し、今も確実に存在するヨーロッパ統合政治の認識枠組みを、遠藤教授は「小文字の統合integration」（統合機関の組織間・組織内政治、及び欧州委員会などへの集権化と加盟国への分権化の間の綱引き）と呼びます。

本書4章は、統合反対者であるサッチャーを、「マイ・マネー・バック」と叫び、過剰な自己主張と過剰な主権に固執することによって、愛する身内をも敵に回し、自滅する「狂乱女王」と描きます。敵手ドロールは、統合推進者としてではなく、「人格主義者」であることで勝利します。この「小文字の統合」から描かれた「サッチャー対ドロール」は、ヨーロッパ研究の泰斗スタンレイ・ホフマンが描いた「ドゴール対モネ」を髣髴させ、説得的で、かつ、読者を楽しませます。

等身大の観点から見直し、当事者の言説のなかに発見し、それを政治学の術語として洗練させた遠藤教授の著作は、我が国の統合ヨーロッパに関する認識を永遠に変えようとしています。

本書が多くの評者に高く評価され、より多くの読者に会えることを、心より慶賀したいと思います。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）



贈賞式の様子



挨拶をする遠藤教授【読売新聞撮影】

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	16,137件	2,872,890,469円
基金累計額（7月31日現在）	教職員の寄附率	33.3%（1,304件／3,921人）

7月のご寄附状況

法人等12社、個人210名の方々から7,213,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

医療法人耕仁会 札幌太田病院、有限会社札幌庭園工業、株式会社シジシージャパン 北大水産学部卒業生有志、
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会、桑園整形外科、寺田医院、医療法人社団 平成醫塾 苫小牧東病院、
柏楊印刷株式会社、函館中央病院、医療法人社団北水会、北海道バイオシステム株式会社

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	相庭 孝昭	浅野 賢二	安達 弘高	安達 昌昭	天知 輝夫	荒井 克俊	安藤 靖浩
石川 喜年	伊藤 寛志	今井 一郎	入澤 秀次	上野 洋路	上村 友也	鵜沼 ワカ	江端 英隆
大塚 仁美	大西 広二	大野 陽一	小川 好広	奥谷 充章	尾島 孝男	織田 健造	小田 智恵
小内 透	小原 大和	帰山 雅秀	笠井 久会	加藤 亮子	金川 眞行	金澤 諭	川上 豊
川倉 健治	河本 充司	菊池 健二	菊地 茂	菊地由生子	岸 道郎	木下 俊文	木村 暢夫
木村 純	工藤 秀明	熊谷 茂	栗林 裕	栗原 秀幸	桑野 潔	郡山栄次郎	小柴 誠
小山 司	齊藤 誠一	斉藤 久	坂尻 覚	佐藤 雅夫	佐野 公昭	三分一博基	柴田 博
柴田 祐次	島村 和夫	清水 哲也	清水 智之	清水 宗敬	白石 重政	城座 諭	鈴木 邦夫
須田 孝徳	瀬名波栄潤	都木 靖彰	高田 早苗	高橋 厚一	高橋是太郎	高橋 光彦	高森 信三
高柳 秀昭	滝野沢清彦	竹内 恒雄	立野 正敏	玉井 孝一	土家 琢磨	寺澤 睦	百海 琢司
豊田 威信	中川 洋	長嶋 和郎	長島 健一	永島 哲郎	長瀬 俊彦	中野 浩一	中谷 純
中屋 光裕	鳴海 晃	西田久美子	沼口 明夫	沼倉 修	服部 雅樹	平林 高之	廣瀬 知弘
藤田 正文	古田 康	星野 俊一	細川 雅史	本間 行彦	前屋舗 尚	松野 誠夫	松本 豊
水田 浩之	皆川 知紀	宮内 俊次	三宅 哲	宮下 和夫	宮本 武司	向井 徹	村島 義男
八木澤久美子	安井 敬一	安井 肇	矢部 衛	山内 隆嗣	山内 貴敏	山口 篤	山崎 賢司
山崎 浩司	山廣 規之	吉岡 昭	吉田太久美	吉田 広志	脇坂 明美		

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会、桑園整形外科

(個人)

安達 昌昭, 大野 陽一, 奥谷 充章, 織田 健造, 小山 司, 柴田 祐次, 西田久美子, 平林 高之

感謝状の贈呈



長沼昭夫様 (平成26年7月30日)

高額寄附者との懇談会

北大フロンティア基金では7月30日(水)に、昨年7月以降にご寄附いただいた高額寄附者の方々をご招待し、総長室展示物見学・総長との記念写真撮影及び懇談会を開催しました。当日は、個人9名、企業7社14名の方々が出席し、はじめに鏗山賢一理事の挨拶があり、次いで総長室で山口佳三総長と記念写真の撮影を行いました。その後、百年記念会館会議室において懇談会を開催し、山口総長から寄附へのお礼が述べられ、寄附者の方々とは本学役員との懇談が和やかに行われました。



懇談会で挨拶する山口総長

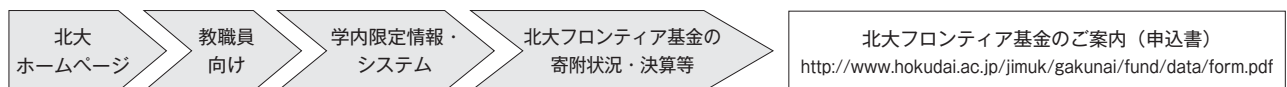


懇談会の様子

ご寄附のお申し込み方法

①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室(事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

平成26年度 公益財団法人北海道大学クラーク記念財団 助成事業の決定

公益財団法人北海道大学クラーク記念財団では、本学の教育研究、学生支援等に対し毎年助成事業を行っていますが、本年度につきましては次のとおり決定しました。

なお、助成金額の総額は、今後の予定も含めまして総額25,530,000円となっています。

(総務企画部総務課)

1. 教育研究活動支援事業

(1) 博士後期課程在学研究助成

採択数 16件 採択金額 7,880,000円

氏名	所属部局等	学年等	研究課題名	助成額
馬 嘉繁	経済学研究科	DC3年	中国国有銀行における労務管理改革及びその内部労働市場	500,000円
千葉 陽平	理学院	DC1年	^{24}Mg のクラスター構造とアイソスカラー型単極子励起の理論的研究	425,000円
飯島 正也	理学院	DC2年	日本産魚食ワニの系統関係とワニ類の食性の進化	500,000円
藤本 裕輔	理学院	DC2年	高解像度三次元シミュレーションを用いた銀河構造と分子雲形成・星形成の研究	500,000円
伊東 孝政	医学研究科	DC2年	重症薬疹における特異的細胞死誘導受容体をターゲットにした新規治療薬開発	500,000円
清水 智弘	医学研究科	DC3年	生活習慣病による骨脆弱性発症メカニズムの解明 -赤外イメージングによる骨質の可視化と骨の力学特性の相関解析-	500,000円
陳 冲	医学研究科	DC3年	運動療法のストレス緩和作用に関する行動・薬理学的研究	500,000円
煮雪 亮	情報科学研究科	DC1年	光局在モードを制御した新規ランダム構造における共振器性能の評価に関する研究	500,000円
樋浦 諭志	情報科学研究科	DC1年	高スピン偏極界面の創出に向けた炭素原子吸着マグネタイト表面の電子状態に関する研究	500,000円
陳 孫祿	農学院	DC3年	イネゲノムに内在するウイルスDNA配列と感染したウイルスとの攻防	500,000円
松田 純佳	水産科学院	DC1年	日本周辺海域における小型ハクジラの食性	455,000円
西澤 瑞穂	水産科学院	DC2年	未利用水産資源から作製した糖修飾魚肉タンパク質の関節炎予防効果に関する研究	500,000円
雨谷 教弘	環境科学院	DC2年	気候変動に対する高山植生変化の定量化とメカニズムの解明	500,000円
佐橋 玄記	環境科学院	DC2年	保護区は漁業進化を助長するか？ サクラマス你的生活史変化に伴う漁業資源の応答評価	500,000円
喬 琳	環境科学院	DC3年	極低濃度オゾン雰囲気における疑似細胞膜の構造評価	500,000円
坂野 優斗	総合化学院	DC1年	超分子キラリティ伝播に基づく有機酸化還元応答系の機能開発	500,000円

(2) 新渡戸基金研究助成

採択数 1件 採択金額 500,000円

氏名	所属部局等	学年等	研究課題名	助成額
田岡 昌大	教育学院	DC3年	新渡戸稲造における「教養」(「修養」)思想に関する教育学的研究	500,000円

2. 教育研究国際交流支援事業

(1) 学部学生等海外派遣助成（留学）

採択数 3件 採択金額 750,000円

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
真弓 浩明	文学研究科	MC2年	ロシア（極東連邦大学） <H26. 8. 27～H27. 6. 15>	250,000円
加藤 雅大	経済学部	3年	フィリピン（デラサル大学） <H26. 9. 8～H26. 12. 15>	250,000円
関 亮輔	経済学部	3年	ベトナム（ベトナム国家大学ホーチミン校） <H26. 9. 16～H27. 1. 18>	250,000円

(2) 外国人留学生奨学金助成（給付・単年度限りとする）

採択数 3件 採択金額 1,500,000円

氏名	所属部局等	学年等	国籍	助成額
テイ アンケツ 丁 文杰	法学研究科	DC3年	中国	月額 50,000円(×6月)
アン ヤン 安 燕	医学研究科	DC4年	中国	月額 50,000円(×12月)
リュウ ショウケン 劉 昭君	理学院	DC2年	中国	月額 50,000円(×12月)

3. 奨学育英事業

学部学生奨学金助成（貸与）

採択数 継続者14件 <月額 50,000円×12月> 採択金額 8,400,000円

※平成25年度から新規の募集を行わないこととなった。

【今後の予定】

4. その他の事業

学業優秀者表彰助成（クラーク賞）

採択数 50件 採択金額 1,000,000円

5. 教育研究国際交流支援事業【学部学生等海外派遣助成（留学）】の追加募集

採択数 22件 採択金額 5,500,000円

衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会が本学を視察

7月23日（水）、衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会一行が本学を視察されました。

今回の視察は、科学技術、イノベーション推進の総合的な対策に関する実情調査を目的として実施され、同委員会から竹本直一委員長、三原朝彦理事、福田昭夫理事、馳 浩理事、伊東信久理事及び宮本岳志委員の6名が来学されました。

同日午前には医学研究科に到着し、川端和重理事・副学長、村田直樹理事・事務局長、笠原正典医学研究科長及び寶金清博大学病院院長等の出迎えを受けた一行は、医学研究科の白土博樹教授から、昨年度まで5年間にわたって内閣府最先端研究開発プログラム（FIRST）の支援を受けた、「持続的

発展を見据えた分子追跡放射線治療装置の開発」事業の実績や陽子線治療の概要、さらに世界最先端の研究成果に基づく米国スタンフォード大学からの研究ユニット誘致等について説明を受けた後、北大病院陽子線治療センターへ移動し、動体追跡陽子線治療装置を視察されるとともに、寶金病院長から北大病院の国際化について説明を受けました。

その後、事務局へ移動した一行は、山口佳三総長ほか理事等と懇談し、山口総長から、本学の概要や「北海道大学近未来戦略150」について説明を受けるとともに、大学院教育、人材育成、グローバル化対応等について活発な意見交換が行われました。

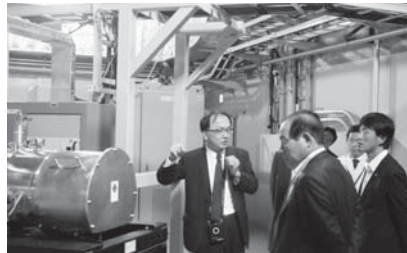
午後には、北海道庁、北海道経済連

合会及びノーステック財団の関係者も同席のもと、北キャンパスエリアにおける産学官連携施設を視察され、川端理事・副学長から、本学の研究活動や新産業創出のための産学地域協働の取組の概要について説明の後、理学研究院の塚本尚義教授から、オープンファシリティとしての「同位体顕微鏡システム」について、また先端生命科学研究院の綾部時芳教授から、生物機能分子研究開発プラットフォーム（動物実験施設）について、それぞれ産学官連携の諸活動及びその成果を中心に説明を受け、全行程を終了しました。

（総務企画部総務課）



山口総長から概要説明



北大病院陽子線治療センターでの白土教授の説明



北キャンパスエリア施設について川端理事・副学長（左から2人目）から説明を受ける（前列右から）三原理事、伊東理事、福田理事、宮本委員、馳理事



創成科学研究棟で同位体顕微鏡システムについて説明を行う塚本教授



生物機能分子研究開発プラットフォーム（動物実験施設）での綾部教授の説明

北洋銀行ものづくりテクノフェア2014に出展

7月24日(木)、アクセスサッポロ(札幌市白石区)にて「北洋銀行ものづくりテクノフェア2014」が開催されました。

本フェアは北海道のものづくり産業の振興を図ることを目的として、優れた技術や製品を有する中小企業、大学、支援機関等が展示ブースを設けるもので、本学も出展しました。今回は、出展者が196社・団体、来場者が約4,300名と過去最多の規模となり、販路拡大や企業間連携の促進など活発な情報交換を行う場となりました。

本学のブースでは、「微細加工／微細構造解析プラットフォーム」、

「ポンファシリティー」、医学研究科の石川正純教授の「X線による皮膚障害予防に有効な線量計」、産学連携本部の「ワンストップ窓口」などの紹介を行い、多くの来場者にお越しいただきました。中には、「微細加工／微細構造解析プラットフォーム」で実際に装置を借りる方法や、共同研究までの手順について具体的なお質問をいただくなど、中小企業や中小企業支援機関等の皆様との交流がますます深まった一日となりました。

(産学連携本部)



北海道大学のブースの様子



医学研究科 石川教授の研究成果

中学生が電子顕微鏡を体験

7月11日(金)に別海町立中西別中学校の生徒10名が、本学工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センターの超高压電子顕微鏡室を訪れ、超高压電子顕微鏡の見学と走査型電子顕微鏡を利用した観察実験をしました。これは、大地みらい信用金庫と本学産学連携本部との連携協定の 일환で企画されたものです。

ナノメートルなどの単位や原子、電子顕微鏡の原理などの勉強をした後、マルチビーム超高压電子顕微鏡やそれを支える大型の除振台を見学し、初めて見る電子顕微鏡の大きさに驚いた様子でした。

次に走査型電子顕微鏡を利用して、人、ウサギ、犬の毛や昆虫などのミクロの世界を観察し、数十倍から数万倍

まで一気に倍率があげられる装置を目の当たりにし、今まで使ったことのある光学顕微鏡との違いに目を丸くしていました。

10名の生徒の中から、将来の北大生、そして科学者が誕生することを期待しています。

(産学連携本部)



走査型電子顕微鏡で毛や昆虫を観察する中西別中学校の生徒

COI-T「食・運動・健康・医療をつなぐ知で家庭に拓く 次世代健康生活創造の国際拠点 ～『食と健康の達人』を創る～」 参画機関会議を開催

本学は、平成24年10月に文部科学省及び独立行政法人科学技術振興機構による「革新的イノベーション創出プログラム」(COI STREAM)にCOI-T(トライアル)として採択された「食・運動・健康・医療をつなぐ知で家庭に拓く次世代健康生活創造の国際拠点」の具現化に向けた取り組みを、本学と筑波大学を含む33の企業・機関・大学とともに強力で推進しています。また、社会実装を見据えた革新的な産学連携研究開発によって、食医融合による健康な生活を産業界と一体となって推進するため、本年4月1日付でフード&メディカルイノベーション(FMI)推進本部を設置し、北キャンパスエリアに本プロジェクトの産学連携研究活動を強化するFMI国際拠点棟の建設を進めているところです。

この度、7月31日(木)に、本拠点参画機関・参画計画機関の関係者及び大学研究者ら約90名にお集まりいた

き、事務局大会議室で全体会議を開催しました。

冒頭、川端和重理事・副学長が本学の産学連携体制について説明し、本学が目指す姿、社会実装を最優先する組織・組織型の産学地協働推進体制である産業創出分野(部門)制度などを紹介しました。

続いて、吉野正則プロジェクトリーダー(産学連携本部客員教授、株式会社日立製作所 中央研究所 シニアプロジェクトマネージャー)が、本拠点の取り組みの現状や今後の方針について説明を行いました。また、筒井裕之研究リーダー(医学研究科教授、北海道大学病院副院長)は、産学連携によるセルフヘルスケアシステムの構築を例に挙げ、医療関係者・企業・患者様など、多様な立場の方々の対話が重要であり、それらがイノベーション・マインドを持った人材の育成にも繋がることを紹介しました。

意見交換の後、産学連携本部の寺内伊久郎特任教授(創造的知財創出部門長)が産業創出型知財ポリシーについて、鷺見芳彦特任教授(産業イノベーション部長)がフード&メディカルイノベーション国際拠点の概要について説明を行い、将来のイノベーション創出へ向けての熱い議論が行われました。

会議終了後には、百年記念会館で開催中の緑のピアガーデンで交流会が開催されました。食・運動・健康・医療・情報分野の幅広い産業界の方々及び大学研究者などの間で、活発に意見交換が行われ、今後のCOIの目指す姿を議論することができました。

◆問い合わせ先:

創成研究機構URAステーション COI担当
E-mail: coi-ura@cris.hokudai.ac.jp

(フード&メディカルイノベーション推進本部)



本学の産学連携体制について紹介する川端理事・副学長



本拠点の取り組みの現状や今後の方針などを説明する吉野プロジェクトリーダー(左)と筒井研究リーダー(右)



会場の様子



交流会の様子

「出入国管理制度説明会」を開催

7月11日（金）に、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において、「出入国管理制度説明会」を開催しました。

この説明会は、日頃、留学生をはじめとする外国人の方々に関わる機会の多い方々に、最新かつ正しい出入国管理制度を知っていただくことを目的としているもので、本学を含む27の高等教育機関、関係団体から83名の参加が

ありました。

説明会では、法務省札幌入国管理局統括審査官の白寄 禎氏による「出入国管理制度について」の講義に、参加者一同が熱心に耳を傾けていました。

また、講義終了後も、熱心に講師に質問する参加者の姿が見受けられました。

（国際本部国際支援課）



講義風景

「海外大学院留学説明会」及び「交換留学説明会」を開催

国際本部は、7月17日（木）に「海外大学院留学説明会」を、また7月16日（水）・18日（金）に「交換留学説明会」を開催しました。

「海外大学院留学説明会」は、海外の大学院での学位取得を志す学生を支援する目的で、在米日本人留学生等により設立された米国大学院学生会が全国の数大学を会場に開催しているもので、本学での開催は今年で4回目になります。説明会では、アメリカやイギリスの大学院に現在在籍中の学生及び

今秋留学予定の学生が講師となり、学位取得留学に関する詳細な説明が行われました。

「交換留学説明会」では、国際教務課より、本学の交換留学制度の概要及び「平成27年度交換留学」の申請に必要な諸手続きについての説明があった後、交換留学生としてアメリカ、フィンランドに留学した2名の学生より、それぞれの留学体験談が披露されました。

国際本部は、海外留学説明会を定期

的に開催するほか、地域別・プログラム別説明会・各種セミナーを充実させるなど、本学学生の留学をより身近なものとするため、情報提供に努めています。

国際本部では、留学相談も行っていますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。

◆jryugaku@oia.hokudai.ac.jp

（国際本部国際教務課）



在米日本人留学生からの説明を聞く参加者
（海外大学院留学説明会）



国際教務課スタッフによる説明
（交換留学説明会）

平成26年度交換留学生に対する出発前オリエンテーションを実施

国際本部において、7月31日（木）に、平成26年度交換留学生に対する出発前オリエンテーションを実施しました。

本オリエンテーションは、平成26年度に主に本学の大学間交流協定大学に留学を予定している学生を対象に行われたもので、30名余りの学生が参加しました。

オリエンテーションでは、冒頭に文学研究科の瀬名波栄潤教授、経済学研究科の高井哲彦准教授及び、公共政策学連携研究部の小浜祥子准教授等、交換留学生の面接を担当した諸先生よ

り、留学を目前に控えた学生達に対し、自身の留学経験から留学生活における留意点を織り交ぜた有意義なメッセージが贈られました。次いで、国際教務課より、出発前・滞在中及び帰国に際し、危機管理を含め留意すべき事項について詳細な説明がありました。参加学生達は、出発を目前に控え、真剣な表情で聞き入っていました。

オリエンテーション終了後、各学生の自己紹介が行われ、引き続き、交換留学経験者並びに協定大学からの交換留学生等を含めた交流会がにぎやかに行われました。

国際本部では、海外留学説明会を定期的に開催するほか、地域別・プログラム別説明会や各種セミナーを充実させるなど、本学学生の留学をより身近なものとするため、情報提供に努めています。

国際本部では、留学相談も行っていますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。

◆jryugaku@oia.hokudai.ac.jp

（国際本部国際教務課）



公共政策学連携研究部
小浜准教授からの激励の言葉



熱心に話を聞く参加者

アイヌ民族の文化に触れる「ホリデー in ひだか」を開催

国際本部と国立日高青少年自然の家の共催で、7月19日（土）・20日（日）の2日間、「ホリデー in ひだか」を日高町で開催し、7ヶ国から24名の留学生と22名の日本人学生（新渡戸カレッジ生）が参加しました。

今年で23回目となるこの事業は、例年と趣向を変え、留学生に対してはアイヌ民族の生活文化体験を通して、日本人学生との「交流」について考えるとともに、文化の多様性に気づくこと、日本人学生に対しては事業の企画、運営に実際に関わることで、コミュニケーションスキルを高めることを目的としています。

1日目は、グループに分かれて自己紹介をした後にゲームを行い、すっかり打ち解けたところで平取町立二風谷アイヌ文化博物館の見学とともにアイヌ民族に関するDVDを鑑賞しました。日本人学生も道外出身者が多く、

生のアイヌ民族の文化や歴史にはじめて触れる学生が大半で、参加者の興味と関心は尽きないようでした。

その後、国立日高青少年自然の家に移動し、アイヌ民族の歌唱と舞踊を体験しました。歌唱は口から口へ、声から声へと受け継がれる独特の伝承で、参加者もその一部となってその世界を垣間見ました。舞踊では引率の先生を含む全員が、狩人、鶴、鯨となり、大きな輪となって躍りました。終了後はバーベキューを行い、焼きそばやホットク、焼肉を瞬く間に平らげて、先ほどの体験の話に花を咲かせていました。

2日目は全員で「朝のつどい」のラジオ体操に参加しました。留学生の中には初めてラジオ体操をする人もおり、左右を見渡しながらささやかな文化体験をしていたようでした。朝食後はクラフトを体験しました。彫刻刀を使って独特の文様を模ったコースター

や野生のイタドリを切って笛を作り、さらに時間が余ったため即興で切り絵をラミネート加工した下敷き作りに挑戦しました。特にイタドリの笛は好評で、札幌に戻ってからも笛を手放すことはありませんでした。

昼食後には活動のまとめを行いました。各グループに分かれ、事前に立てた目標で達成できた点、できなかった点をまとめ、日本語と英語で発表しました。最後に、国立日高青少年自然の家スタッフと体験活動の講師の方々にお礼を言い、学びの場を後にしました。

今回のプログラムは留学生、日本人学生がともに多くを学ぶことができ、実りあるものとなりました。

（国際本部国際支援課）



アイヌ舞踊体験



イタドリの笛作り



記念撮影

化学物質取扱講習会を開催

本学では国立大学法人北海道大学化学物質等管理規程に基づき、化学物質を取り扱う全ての者に対して毎年「化学物質取扱講習会」を実施しています。今年度は安全衛生本部とサステイナブルキャンパス推進本部環境保全センターが中心となって、札幌キャンパスと函館キャンパスにて計15回開催し、合計1,800人近くの参加者が集まりました。

講習会では、昨今注目を集めるハ

ザードとリスクをベースとした化学物質管理の考え方を基調に、化学物質の危険有害性の分類、法令遵守と安全配慮義務の関係といった総論から、代表的な法規制の考え方と最近の動向、さらには実験室でのSDS（安全データシート）の活用方法や実験器具の洗浄操作など具体的な留意事項まで、映像資料等も交えながら化学物質管理に関する幅広い内容を紹介しています。受講終了後のアンケートでは「わかりや

すかった」「勉強になった」といった好意的な意見が大半を占めており、現場での化学物質の取扱いに役立つものと確信しています。

なお、本講習会は毎年開催しています。初めての方だけでなく、すでに受講経験のある方も、年に1度の復習の機会として毎年積極的に受講するようお願いします。

(総務企画部総務課安全衛生室)

講習会の内容

1. 実験室で化学物質を取り扱う際の注意点
(担当：澤村正也教授（安全衛生本部副本部長）、川上貴教准教授（安全衛生本部）)
2. 廃液の取扱いについて（担当：松藤敏彦教授（環境保全センター長）、一部代理）

1	6/20（金）10：30～12：00	理学部 大講義室
2	6/24（火）10：30～12：00	農学部 4F 大講堂
3	6/24（火）14：45～16：15	工学部 オープンホール
4	6/25（水）10：30～12：00	農学部 4F 大講堂
5	6/25（水）14：45～16：15	獣医学部 講堂
6	6/26（木）16：30～18：00	歯学部 講堂
7	6/30（月）14：45～16：15	北キャンパス・創成 創成棟5F 大会議室
8	6/30（月）16：30～18：00	北キャンパス・創成 創成棟5F 大会議室
9	7/1（火）10：30～12：00	医学部 臨床講義棟2F 大講堂
10	7/1（火）14：45～16：15	地球環境科学研究所 D棟201室
11	7/4（金）10：30～12：00	工学部 オープンホール
12	7/4（金）13：00～14：30	工学部 オープンホール
13	7/9（水）14：45～16：15	函館キャンパス 講義棟大講義室
14	7/10（木）10：30～12：00	函館キャンパス 管理研究棟6F 大会議室
15	7/11（金）14：45～16：15	理学部 大講義室



講演する松藤教授



会場の様子

平成26年度北海道大学情報セキュリティセミナーを開催

7月17日（木）午後1時から、高等教育推進機構N302教室において、情報環境推進本部主催の「平成26年度北海道大学情報セキュリティセミナー」を開催しました。

今回のセミナーでは、マカフィー株式会社公共営業本部長の宇野 誠氏からの挨拶の後、同社セールスエンジニアリング本部の佐藤公理氏より、「日本でも感染急増！？巧妙になるサイバー攻撃への備えとは～今、個人、組

織に求められるセキュリティ対策とは？～」と題して、情報セキュリティに関する近年の脅威動向と対策ポイントについて講演が行われました。

次に、同社サイバー戦略室シニア・セキュリティ・アドバイザーの佐々木伸彦氏より、「既に感染しているかも？！今日からできるマルウェアの見つけ方～動的解析のスヌメー基礎編～」と題して、近年のマルウェアの特徴と感染の兆候について解析ツールを使っ

た詳しい解説が行われ、セミナーに参加した約40名の教職員及び学生等は熱心に耳を傾けていました。

情報環境推進本部では、今後も情報セキュリティセミナー等の開催を通して、本学の教職員及び学生への情報セキュリティに関する認識を高めていきます。

（情報環境推進本部情報推進課）



挨拶する宇野氏



講演する佐藤氏



講演する佐々木氏



参加者の様子

■ 部局ニュース

水産学部附属練習船おしよろ丸V世の竣工披露式・祝賀会を挙行



竣工したおしよろ丸V世

水産学部では、附属練習船おしよろ丸V世が7月28日（月）に竣工し、8月1日（金）に函館市国際水産・海洋総合研究センターで竣工披露式を挙行了しました。

竣工披露式では、山口佳三総長の挨拶に続き、佐野 太文部科学省大臣官房審議官、高橋はるみ北海道知事（代読：宮内 孝北海道渡島総合振興局長）からそれぞれ祝辞をいただき、木村暢夫おしよろ丸代船建造小委員会委員長より建造経過報告がありました。その後、おしよろ丸V世が着岸している岸壁へ移動し、関係者10名によるテープカットが行われ、高木省吾おしよろ丸船長と大和田真紀三等航海士の案内のもと、順次船内縦覧を行いました。

続いて、ロワジュールホテル函館で行われた竣工祝賀会では、安井 肇水産学部長の挨拶の後、田中孝雄三井造船株式会社代表取締役社長、工藤壽樹函館市長、横山 清北水同窓会長より祝辞をいただき、その後関係者16名による鏡開きが行われました。佐伯 浩前総長による祝杯の発声により祝宴が始まった会場では、おしよろ丸V世の建

造風景や船内業務などが映像で紹介され、新船の誕生に歓談が尽きない中、嵯峨直恆弘前大学食料科学研究所長の乾杯により、盛会のうちに終了しました。

また、8月2日（土）に行われた一般公開には、市民や同窓生など約1,500名もの見学者が訪れ、船員に質問をしたり熱心に写真を撮るなど、普段目にするのでできない船内の雰囲気を楽しんでいました。

本船は全長約78.27m、幅13m、総トン数は1,598トン、最大搭載人員は99名（うち学生60名）です。格納型フィンスタビライザーにより船体動揺を低減し、荒天時でも海洋観測を継続することが可能となりました。また、8,000m級ウインチや最新型の海底地形探査装置も備え、研究室及び学生実習室も拡大し、海洋での「教育プラットフォーム」として人材育成及び調査研究等を今まで以上に進めていくことが期待されます。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



竣工披露式でのテープカット



来賓に説明をする大和田三等航海士



祝賀会での鏡開き



一般公開の様子



見学者と談笑する高木船長

教育学研究院が韓国ソウル国立大学校師範大学と覚書を締結

7月14日（月）、教育学研究院は、韓国ソウル国立大学校師範大学と覚書を締結しました。

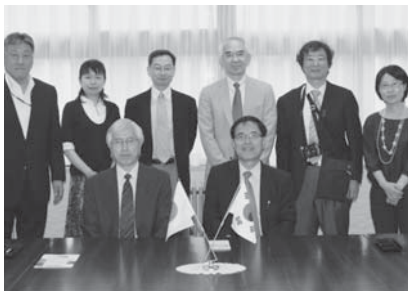
本学で執り行われた調印式には、ソウル国立大学校からは師範大学教育学部長であるTae-Won Jun教授と副学部長のChan-Jong Kim教授が出席し、本学からは小内透研究院長及び宮崎隆志副研究院長ほか4名が出席しました。

小内研究院長とJun教育学部長の挨拶の後、覚書に署名し、記念品を交換しました。

また、調印式終了後、今後の交流計画について、意見を交換しました。本研究院が主幹となり、ソウル国立大学校師範大学、並びに韓国・高麗大学校師範大学、中国・北京師範大学、タイ・チュラロンコン大学教育学部と毎

年実施している学部生短期留学支援制度であるESDキャンパスアジア・プログラムの持続的発展について合意することができ、教員及び学生の活発な交流の継続が期待されます。

（教育学院・教育学研究院・教育学部）



参加者の集合写真



覚書署名の様子（左：小内研究院長）



意見交換会の様子

総合博物館開館入館者100万人達成

総合博物館は、1999年11月に開館し、開館10年目の2009年10月には50万人、2011年には70万人の入館があり、その数は年々増加傾向にあります。昨年度は1年間に12万人以上の来館者をお迎えし、7月25日（金）に通算100万人を達成しました。

100万人目の来館者となったのは、福岡市在住の青柳久信さん（小学4年生）です。お母様の元子さんと一緒に来館しました。久信くんは初めて北海道を旅行し、ガイドブックで当館を知り、午後の飛行機で帰る前に立寄ったそうです。100万人目に選ばれ、「とてもうれしいです」と喜んでくださいました。博物館の印象・興味を引いた

所を聞くと、久信くんは「恐竜にいろいろな形があって面白かったです」、お母さんの元子さんは「建物にすごく歴史を感じるので、是非このままの姿を残して欲しいです」と語ってくださいました。

100万人達成記念セレモニーには山口佳三総長も出席し、挨拶と花束の贈呈を行い、津曲敏郎館長は大学院生が開発したミュージアムグッズを記念品として贈呈しました。司会はミュージアムマイスターの木野瑞穂さん（理学院修士1年）が務めました。

（総合博物館）



記念品贈呈の様子

国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院が 英国シェフィールド大学との教育・研究交流 「TLLPスタディ・ウィーク」を開催



パネル・ディスカッションの様子



学生発表会の様子

国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院は，イギリス・シェフィールド大学との教育・研究交流プロジェクトの一環として，「TLLPスタディ・ウィーク」（7月セッション）を7月29日（火）・30日（水）に開催しました。イギリスからはシェフィールド大学東アジア研究所所長のグレン・フック教授と3名の大学院生が本学を訪れ，関連するセッションに参加しました。TLLPとは Tandem Language Learning Projectの略称で，このプロジェクトの目的は，①学生教員を含めた双方の研究交流及び研究ネットワークの構築，②研究遂行（データ収集，インタビュー，研究発表，研究討論など）のために必要となるアカデミックな言語スキルの獲得

にあります。オンラインを介して進行する教育・研究プログラムと並行し，相互に相手の大学を直接訪問して研究発表や教育交流を行う機会である「TLLPスタディ・ウィーク」を，年に1～2回ほど企画しています。

今回の7月セッションでは，主たるプログラムとして，①講演会（シェフィールド大学フック教授「地域研究における日英対話の促進」），②学生研究発表会（国際広報メディア・観光学院生2名，シェフィールド大学院生3名が発表），③パネル・ディスカッション（「研究の倫理，出版そしてインパクト：日英の状況から」）が開催されました。それぞれに本学院生，教員，附属図書館職員等が多数参加し，興味深い発表や熱心な討議を通じて活発な教

育・研究交流が行われました。特に講演会におけるフック教授からの現代の地域研究と大学の知の意義についての問題提起や，その話題を引き継ぐ形で展開されたパネル・ディスカッションでの研究倫理のテーマなどは，極めて重要な現代の課題でもあり，参加者に大きなインパクトを与えました。また大学院生の発表も，現代の日英の社会を鋭く分析するもので，相互に大きな刺激となりました。このスタディ・ウィークは今年9月にも予定されています。

（国際広報メディア・観光学院，
メディア・コミュニケーション研究院）

スラブ・ユーラシア研究センターが国際シンポジウム「危機の30年」を開催

スラブ・ユーラシア研究センターは、7月10日（木）・11日（金）に、夏期国際シンポジウムThirty Years of Crisis: Empire, Violence, and Ideology in Eurasia from the First to the Second World War（危機の30年：第一次～第二次世界大戦期ユーラシアにおける帝国・暴力・イデオロギー）をセンター大会議室で開きました。（科学研究費基盤研究A「比較植民地史：近代帝国の周縁地域・植民地統治と相互認識の比較研究」との共催）

ロシア・ウクライナ紛争や中国の台頭で世界秩序が流動化する中、今年が開戦100年に当たる第一次世界大戦を再考する動きが世界的に広がっていますが、このシンポジウムでは第一次世界大戦を単独でとらえるのではなく、直前のバルカン戦争から戦間期の様々な危機、そして第二次世界大戦までを視野に入れました。特に戦争・暴力と

帝国・植民地の交差に注目し、諸帝国間の境界地域が戦争の中で持った重要性、この30年間における帝国主義の揺らぎ・変容・再活性化がもたらした暴力や新しい植民地政策、帝国主義と反植民地主義の間で生まれた様々な思想を論じました。

1日目は、第1セッション「第一次世界大戦：帝国に挟まれた戦場」、第2セッション「崩壊に向かうロシア帝国の中のムスリム」、第3セッション「食糧と飢餓のポリティクス」、2日目は、第4セッション「第一次世界大戦が革命とナショナリズムに与えた影響」、第5セッション「広域圏の思想と政治」、第6セッション「戦間期から第二次世界大戦期の植民地主義」が開かれました。報告者は17名（うち外国人9名）、討論者、司会者は各6名でした。報告者の世代構成は、ロシア・ソ連史の世界的権威である長谷川

毅カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授（当センター元教授）、マーク・フォン・ハーゲン・アリゾナ州立大学教授から、本学大学院生を含む若手研究者まで、多彩でした。そのほか2日目には附属企画として、外国人報告者による特別セミナー「旧ソ連地域における紛争」も行いました。2日間全体の参加者は計98名に上りました。

スラブ研究センターからスラブ・ユーラシア研究センターへ改称後初の国際シンポジウムにふさわしく、ロシア・ソ連を中心としながらも、東は日本、朝鮮、ベトナムから、西はオスマン帝国、バルカン、ドイツに至るユーラシア諸地域の歴史を縦横に議論する場となり、大変刺激的な思考材料を得られた2日間でした。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



第1セッションの報告者



第4セッションでの議論の様子

文学研究科「書香の森」にて絵画作品解説会を開催



作品解説をする北村教授

文学研究科・文学部のエントランスホールに「書香の森」と名付けられた空間があります。ここでは、文学研究科の教員が執筆した図書を展示するとともに、図書や芸術に関連する企画展示を行っており、文学研究科の広く多彩な研究を紹介する学術交流と知の発信の場となっています。平成25年9月より「美術の北大」と銘打って本学所蔵の美術作品を紹介するシリーズ企画を展開しています。

現在は、第3回の企画展示として、工学研究院から小野垣哲之助の絵画《北大工学部風景》《吉町先生像》を借りて、水産科学館に保存されている正田豊治のガラス乾板から複写した

写真《白亜館（旧工学部校舎）》と併せて展示しています。7月2日（水）には、文学研究科芸術学講座の北村清彦教授による、作品の来歴や作者の紹介、白亜館にまつわる作品解説会が行われました。

当日は、学外からの一般参加者を含め、多くの方にご来場いただきました。白木沢旭児文学研究科長の挨拶の後、北村教授による展示作品の解説がありました。絵画に描かれた初代工学部長である吉町太郎一先生について、吉町先生像作者の加藤顕清について、白亜館について、小野垣哲之助や彼が師事した木田金次郎についてなど、解説は多岐にわたり、和やかな雰囲気

行われました。来場者は、一つの作品をめぐってひもとかれる豊かな鑑賞の世界を楽しんでいました。

この企画展示は、8月中旬まで行われ、その後は他部局の美術作品の展示を継続的に行っていく予定です。「書香の森」は、広く一般に公開されています。文学研究科のお近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。

なお、「書香の森」は文学研究科ウェブサイトにおいても紹介しています。

◆<http://www.let.hokudai.ac.jp/book/>

（文学研究科・文学部）

理学部で「がん細胞の動きを止めろ！ ～がん細胞のタンパク質を光らせよう～」を実施

理学部生物科学科（高分子機能学）では平成19年度から毎年、体験入学「ひらめき☆ときめきサイエンス」を実施しています。今年度は、7月26日（土）に理学部5号館学生実験室において、「がん細胞の動きを止めろ！～がん細胞のタンパク質を光らせよう～」と題し、高校生を対象に実施しました。

本プログラムは、科学研究費補助金「基質の軟らかさによって誘引される細胞の協調的集団運動に関する研究」（研究代表者：先端生命科学研究院・芳賀 永教授）の成果をもとに、大学の最先端の科学に触れてもらおうという企画です。北は稚内、東は根室と、道内各地の高校から18名の高校生に参加いただきました。また、今回は独立行政法人日本学術振興会から医歯薬学専門調査班専門研究員である松原久裕先生（千葉大学教授）、同職員である

今野久乃さんの臨席がありました。

開講の挨拶、オリエンテーションの後、松原先生から科学研究費についてのお話があり、日本の優れた研究や技術は科学研究費によって支えられていることを説明していただきました。次に、がん細胞の運動とその阻害実験に関する授業を行いました。この後、3つの班に分かれて、大学生、大学院生と一緒に細胞骨格タンパク質を光らせたがん細胞の蛍光顕微鏡観察を行いました。

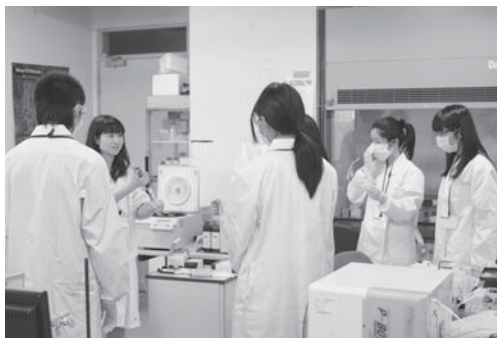
昼食は中央食堂2階でとり、高校や大学生活の話などで盛り上がりました。昼食後、研究室見学ツアーを経て実験室に戻り、蛍光顕微鏡観察を行いました。その後、各々1台のノートパソコンを使って、阻害剤投与前後の細胞形態を数値化し、解析を行いました。

最後に、参加者全員に「未来博士号」を授与しました。その後、クッキータイム（参加者との交流会）を行い、実験の感想や来るべき大学生活についての抱負などを語り合いました。

ポスターやチラシの作成・配布、宣伝のための高校訪問、実験の準備など当日に至るまで苦労が多かったですが、参加者が実験結果に感動している姿を見て、本企画を実施してよかったと実感しています。

実施にあたりご支援をいただいた事務担当者の方々、事前の広報活動、実験の補助を担当してくれた大学生、大学院生の方々に、深くお礼申し上げます。

（理学院・理学研究院・理学部）



実験操作の説明



細胞試料の固定染色



蛍光像の画像解析



クッキータイム

北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

医学研究科及び歯学研究科では、7月30日（水）に北海道大学納骨堂（豊平区平岸）において、医学及び歯学研究のため尊い御遺体を捧げられた御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、山口佳三総長、笠原正典医学研究科長、横山敦郎歯学研究科長ら30名が参列し、参列者全員による黙とう及び献花を行い、厳粛のうちに慰霊式が終了しました。

（医学研究科・医学部）



黙祷をささげる参列者



献花をする山口総長

工学系部局で救急救命講習会を実施

工学系部局では、7月10日（木）に物理工学系大会議室において、公益財団法人札幌市防災協会から講師を招き、救急救命講習会を実施しました。

工学系部局のエリア内では、「どこにいても5分以内にAED（自動体外式除細動器）による処置が可能となる」目安を満たすよう、10箇所にAEDを設置していますが、実際に使用できるか不安な人も多くいます。

この講習会は、学内外に関わらず心

肺停止に陥った人がいた場合、AEDを利用する等の方法により救急救命処置を行うことができるよう、心肺蘇生術を自身の技能として体得することを目的に実施したものです。

講習会では14名の参加者が2グループに分かれ、成人に対する心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法等を学び、終了後に全員が「普通救命講習修了証」を授与されました。

参加者からは、「もしもの場合に備

えて、一人ひとりが実習を体験できてよかった」、「非常にわかりやすく、3時間がそれほど長く感じなかった」、「職場だけでなく、日常生活にも役に立つ内容でとてもよかった」などの感想がありました。

工学系部局では、次年度以降も、救急救命講習会を開催していく予定です。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科）



講師の説明を真剣に聞く参加者



協力してAEDを使用した心肺蘇生術を行う参加者

附属図書館が保健科学研究院で博士論文のインターネット公表に関する説明会を実施

附属図書館では、6月12日（木）、6月26日（木）の2回、保健科学研究院において保健科学研究院主催による「保健科学セミナー：HUSCAPでの博士論文のインターネット公表に関する諸問題について」を実施しました。

説明会には、教員及び大学院生を中心に延べ42人が参加し、附属図書館の北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）担当者から、学位規則改正に伴う博士論文のインターネット公表の概要と、公表における様々な注意点についての説明がありました。ま

た、併せて附属図書館で開設している、「博士論文のインターネット公表」相談ホットラインが紹介されました。

著作権に関する説明、特に、すでに学術雑誌で受理・出版された論文を博士論文に含める場合の権利確認については、出版社の契約書の読み方まで踏み込んだ説明が行われました。

アンケートの回答では、9割以上の方から「役に立った」という感想が寄せられました。

（附属図書館）



説明会の様子

北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施

北海道大学病院では、7月14日（月）午後2時15分から、夜間に火災が発生した場合を想定した防火訓練を実施しました。

今回の訓練は4階東側病棟の給湯室から出火したことを想定したもので、参加した医師、看護師らは緊張した面

持ちで、通報連絡、初期消火及び避難誘導の訓練に取り組んでいました。

訓練終了後、公益財団法人札幌市防災協会の係員から、「実際の火事ではもっと条件が悪くなる。施設を把握する職員が大きな声を出すことが重要」などの講評がありました。

病院は常に患者さんの安全を守る立場にあり、職種間の連携の大切さを見直す良い機会となりました。

（北海道大学病院）



初期消火にあたる医師と看護師



入院患者の避難誘導

北海道大学病院で「第49回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施

北海道大学病院では、7月30日(水)、「第49回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催しました。患者サービス推進委員会が中心となって色々な企画をしていますが、今年もYOSAKOIソーラン演舞，ボランティアの方々が加わった縁日コーナーと盛りだくさんの内容となりました。

会場のアメニティホールをはじめ、

病院の各所に笹飾りが飾られ、「早く退院できますように」などの患者さんの願いが込められた短冊が涼やかな雰囲気を出し出す中、コンサートは、浴衣姿の司会者のもと、寶金清博病院長の挨拶で開幕しました。

まず、PL北海道第一MBAによるバトントワリングが行われ、その後、YOSAKOIソーラン演舞では、北海道

大学“縁”が若々しい元気な踊りを披露すれば、平岸天神は風格の漂う円熟味のある演舞を披露し、夏の夜を熱く盛り上げました。

最後に、川畑いづみ看護部長の挨拶で、北海道大学病院の夏の風物詩である「七夕の夕べ」は幕を閉じました。

(北海道大学病院)



縁日の様子



バトントワリング



平岸天神の演舞



川畑看護部長の挨拶

総合博物館で夏季企画展示「学船 洋上のキャンパスおしよろ丸」 札幌展示が開幕



初代おしよろ丸の模型



オープニングセレモニーでのテープカット
(左から松原さん、三上理事・副学長、津曲館長、高尾さん)

函館キャンパス水産科学館から始まった企画展示「学船 洋上のキャンパスおしよろ丸」は、7月11日（金）に、札幌キャンパス総合博物館へ巡回して開幕しました。本企画展示の名称は、2年前に公募し、100名以上の応募の中から、展示担当の5名の博物館教員で、高尾裕太さん（当時文学部2年）が名付けた学ぶ船「学船」を採用しました。

展示は、おしよろ丸の歴史、教育、研究、そして船を動かす船員の仕事という4つのパートで成り立っています。展示室は写真と映像を中心とした2階のギャラリーと、展示物を中心とした3階の企画展示室に分かれています。藤田良治助教（博物館映像学）が2回にわたって乗船した60日北洋航海

での学生や研究者、乗組員へのインタビューや映像取材など、学内関係者だからこそ実現できた展示内容となっています。また、おしよろ丸V世の造船工程を1年以上かけて取材し、起工式からモックアップ、工場での造船風景から進水式までの様子も写真や映像でご覧いただけます。

おしよろ丸が世代交代するこの機会に、本学関係者だけでなく市民の方々や観光客にも、総合博物館の展示を通して本学の活動を知っていただき、1世紀以上続くおしよろ丸の意義、本学が練習船を持つ意義をご理解いただければと思います。会期中、企画展担当者による映像解説のほか、ミュージアムマイスターコース学生参加プロジェクトのメンバーが展示解説を行いま

す。

なお、7月11日のオープニングセレモニーでは、ミュージアムマイスターコースのメンバーが司会進行を務め、チェンバロ演奏やイラスト募集の表彰式等が行われました。セレモニーには三上 隆理事・副学長、津曲敏郎館長、「学船」命名者の高尾さん、イラスト募集優秀賞の松原将隆さん（北海道教育大学生）が出席し、水産科学館でのセレモニーと同様、「学船、出航！」の合図でテープカットを行いました。台風の影響もなく天候に恵まれたこともあり、初日から多くの方にご来館いただいています。

（総合博物館）

総合博物館でカルチャーナイト2014「チェンバロと星空の夕べ」を開催

カルチャーナイトとは、札幌の夏の一夜、公共施設などを夜間開放し、市民の方々に地域の文化を楽しんでいただくイベントです。総合博物館では、平成16年度から毎年カルチャーナイトに参加しています。今年は7月18日（金）に「チェンバロと星空の夕べ」を開催し、開館時間を午後9時まで延長して展示を公開しました。カルチャーナイト一週間前には、夏季企画展示「学船 洋上のキャンパスおしよる丸」が開幕していて、仕事帰りに企画展を見に来てくださった来館者も多数いました。

午後6時開演のチェンバロ演奏会は3つのプログラムで構成され、リハーサルの段階から席が埋まり、開演時には立見の方々も多く見られました。宇宙の4Dシアターも定員をはるかに上回る人気で、事前配布の整理券を求めて長蛇の列ができていました。演目は「天かける単身赴任-織姫星と彦星-」

で、参加者は夏らしい夜空の話に耳を傾けていました。

博物館前では「札幌星仲間」による夏の星座の観察会が行われ、多くの方々が様々な望遠鏡を覗き、望遠鏡によって少しずつ見え方が異なる天体の姿を楽しんでいました。

毎年恒例のこれらの企画に加え、今年は「博物館コミュニケーション特論 I」を受講した学生による“Hello, Museum!”も博物館側面のウッドデッキで開催しました。会場では学生と一緒に工作をする企画があり、親子連れの来館者に好評でした。「学船 洋上のキャンパスおしよる丸」に因んだ、おしよる丸乗船実習生の制服を着ての記念撮影会もありました。

今年のカルチャーナイトも多くの方にご参加いただき、様々な企画を楽しんでいただきました。

(総合博物館)



チェンバロ演奏会



宇宙の4Dシアター



夏の星座の観察会

総合博物館で学生発案型の夏のイベント「Hello, Museum!」を開催

2014年度大学院共通科目・理学院専門科目「博物館コミュニケーション特論 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価」（担当：湯浅万紀子准教授、藤田良治助教）を受講した大学院生7名と、ミュージアムマイスターコースの一環としてこの授業を受講した水産学部2年生1名が、総合博物館で夏の体験型イベント「Hello, Museum!」を2回開催しました。初回は7月18日（金）、札幌市内を中心にした文化施設などが開館時間を延長して様々なイベントを実施する「カルチャーナイト」の夕べに、2回目は本学オープンキャンパス初日の8月3日（日）に行いました。会場は、総合博物館の南側、理学部ローンに面したミュージアムデッキです。デッキには手作りの国際信号機が張り巡らされ、博物館に関連した映像が流れ、木々の緑のなか、心躍る楽しい空間が演出されました。

大学院生は、本学学生の来館を促進したい、市民の方々に博物館への親しみを持っていただきたいと考え、両日も開館時間を延長して、体験型のワークショップを3件開催しました。1つ目は「望遠鏡でのぞく世界」で、小中高校生を対象に実施しました。大

学院生が光の性質や望遠鏡の仕組みを解説した後、参加者が簡単な材料と道具を使って屈折望遠鏡を作り、大学院生のガイドのもと望遠鏡を持って構内・館内を巡りました。自宅で振り返ることができるように解説冊子を配布したこのワークショップは、大学院生の分かりやすい解説ときめ細やかな対応について保護者からもご好評をいただきました。

2つ目のワークショップは「ぼんぼんおもしろ丸、出航!」です。当館で開催中の「学船 洋上のキャンパスおもしろ丸」展の関連企画として、水産学部の乗船実習着を試着した記念撮影会と、「おもしろ丸」をイメージした、ロウソクの熱で動くぼんぼん船の工作教室を実施しました（工作教室は8月3日のみ）。参加者それぞれが名前を付けた船を実際に水の上に浮かべ、最後に船の命名書が一人ひとりに手渡されました。このワークショップは、当館での展示解説を中心に活動している北大ミュージアムクラブ Mouseionに協力してもらいました。水産学部生を中心にしたこの取り組みも、参加者2名にスタッフが1名ついて工作を手伝い、丁寧に指導したこと

に、参加者と保護者から高い評価をいただきました。

3つ目のワークショップは「はくぶつかん信号機」です。属性別（市民の方、北大生、来館回数など）に色を変えたカラフルな旗に、当館への感想・提案などを綴っていただき、当館の大きなマップの上に立てていく内容です。大学院生と対話しながら、当館への思いを語っていただくことで、通常のアンケートでは聞き取ることのできない意見を伺うことを目指した試みは、多くの方にご参加いただき、カラフルな旗をたくさん載せたマップが出来上がりました。

いずれの取り組みも、企画した受講生は参加者アンケートや参与観察などを通して、目的が達成されたか、どのような波及効果があったかを検証していく予定です。

7月18日の回では、北大カフェプロジェクトの協力を得て、「Hello, Museum!カフェ」も開催し、夏のひとときを市民の皆様にお楽しみいただきました。

（総合博物館）



屈折望遠鏡の解説と工作「望遠鏡でのぞく世界」



ぼんぼん船の工作「ぼんぼんおもしろ丸、出航!」



総合博物館への思いを旗に綴ってマッピングされた「はくぶつかん信号機」

総合博物館で大学院生が企画・開発したミュージアムグッズの販売開始

2013年度大学院共通科目「博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価」(担当:湯浅万紀子准教授, 藤田良治助教)を受講した大学院生により, 2シリーズのグッズが開発され, 総合博物館内にあるミュージアムショップにて販売が開始されました。この授業は, ミュージアムショップを運営する株式会社エルムプロジェクトのスタッフにも参加していただき, 企画や販売方法の他にグッズ制作者との交渉なども学ぶ社会体験型の実践的な内容となっています。

制作された2シリーズは, 「雪肌あぶらとり紙」(各250円(税込))と「北の学者からのメッセージマグネット」(各400円(税込))です。授業の中で, 博物館に併設されるミュージアムショップでのマーケティングを行ったところ, 「女性にターゲットを絞った商品が少ない」「お土産として購入しやすいグッズが欲しい」との意見が多く見られました。リサーチと検

討を重ね, あぶらとり紙を制作することを決定し, 5名の受講生が, 総合博物館のシンボルとも言える中央階段天井のアインシュタインドームをモチーフとしたグッズ制作を進めました。ネーミングやパッケージデザインも学生が行い, 期待通りのミュージアムグッズを制作できました。

一方, 日常的に使用でき北海道大学らしいグッズを開発しようと, 7名の受講生が, 本学を代表する研究者・教育者の名言をプリントした「北の学者からのメッセージマグネット」シリーズを制作しました。ノーベル化学賞を受賞した鈴木 章名誉教授の直筆色紙「精進努力」, 札幌農学校(北海道大学の前身)初代教頭のウィリアム・S・クラーク博士の「Boys, be ambitious.」, 札幌農学校教授, 東京女子大学初代学長などを歴任した新渡戸稲造博士の「Be Just And Fear Not.」をデザイン化しています。

どちらのシリーズも, 学生の発想か

ら生まれ, 商品化されたオリジナルグッズです。ミュージアムショップでお手にとっていただければと思います。いずれのグッズにも, 受講生による解説文が付されています。

大学院生はショップの店員を務める学生のアドバイスも受けながら, 店頭レイアウトも担当し, プレスや来店者向けにグッズを説明する日を設けてメディアの取材対応も行いました。さらに, 来店者へのインタビューを実施し, 本プロジェクトの成果を評価していきます。ぜひ大学院生が企画・開発したグッズをショップでお手にとり, ご意見をお寄せいただければと思います。制作過程と大学院生のコメントは当館ホームページと公式Facebookで紹介しています。

◆<http://www.museum.hokudai.ac.jp/>

(総合博物館)



「雪肌あぶらとり紙」シリーズ
青色パッケージ, ピンク色パッケージ



マグネット「北の学者からのメッセージ」シリーズ
ウィリアム・S・クラーク(左),
新渡戸稲造(中央), 鈴木 章(右)



グッズを開発した大学院生

遠友夜学校関係資料を札幌市から大学文書館で受贈



遠友夜学校女子生徒作文集『文の園』
生徒・教師等が表紙や作文中に絵をそえている

7月4日（金）、大学文書館では、札幌市から、「遠友夜学校関係資料」575件の寄贈を受けました。

遠友夜学校は、1894（明治27）年に札幌農学校教授であった新渡戸稲造と妻メアリーが札幌に創設した、貧困等で学校に通学できない子どもたちのための学校です。当初は初等部の運営に主眼を置きましたが、後には時代の要請に合わせて中等部を整備しました。

学校の運営には有志の市民が当たり、宮部金吾、大島金太郎、有島武郎、半澤 洵といった札幌農学校・北大関係者が中心的な役割を果たしました。また、多くの農学校生・北大生が教師を務めました。1944（昭和19）年、戦時体制の中で一定の役割を終え、50年に及ぶ歴史に幕を閉じました。

その後、1964（昭和39）年に遠友夜学校の財団法人が解散する際、財団法人

人が保有する「遠友夜学校関係資料」を、札幌市が受贈しました。札幌市では記念室を設けて資料展示を行い、広く遠友夜学校の活動・歴史・理念などを紹介してきました。今後、この貴重な資料を次の世代へと受け継ぎ、遠友夜学校について語り継いでいく必要があるとの問題意識のもと、札幌市と本学との間で資料の寄贈について合意し、今回の資料移管に至りました。

この度受贈した資料は、生徒作文集、庶務・教務・会計関係の文書類、事業報告、夜学校刊行物、生徒用の図書、墨蹟、写真などの遠友夜学校旧蔵の資料類です。今後は、大学文書館において、精査と整理を行い、貴重な歴史的資料として良好な環境で保存することに努め、資料の状態を十分に考慮した利用のあり方を考えていきます。また、展示や研究調査等を通じ、遠友夜学校と資料について紹介していきます。

9月からは、百年記念会館2階展示ホールにおいて、遠友夜学校と「遠友夜学校関係資料」を紹介する小展示を行います。遠友夜学校の歴史、そして本学との深い結び付きについて、読み取っていただければと思います。

（大学文書館）

平塚直治関係資料を大学文書館で再受贈

7月16日（水）、大学文書館では、西 安信氏（学校法人北海道科学大学理事長）から、平塚直治関係資料45点をご寄贈いただきました。西氏は平塚直治のご令孫です。「平塚直治関係資料」については、2006（平成18）年7月に西氏とご母堂の信子氏から受講ノート4点をご寄贈いただいております。今回は重ねてのご芳志となります。

平塚直治（1873-1946）は、1888（明治21）年に札幌農学校予備科に入

学、本科に進学後は宮部金吾教授に師事して植物学を専攻しました。1896（明治29）年、卒業論文として「本邦メランブソラ属ノ研究」を提出して第14期生として卒業し、さらに「亜麻立枯病研究」を進めました。その後、青森県、沖縄県の尋常中学校教諭を経て、北海道製麻株式会社の技師となり、後身の帝国製麻株式会社の取締役を務め、戦前期の北海道実業界において重きをなしました。

この度、受贈した資料は、札幌農学校時代の受講ノート・研究ノートなどノート類34点をはじめ、中学校教諭時代の教え子からの葉書や、弟に当たる平塚直己（陸軍大学校卒業、陸軍少将）の陸軍士官学校卒業後の自筆メモ・原稿などです。

受講ノートは、佐藤昌介（水産学、山林学）、宮部金吾（植物学）、南鷹次郎（園芸学）、橋本左五郎（動物学、昆虫学、畜産学）、岡崎文吉（測

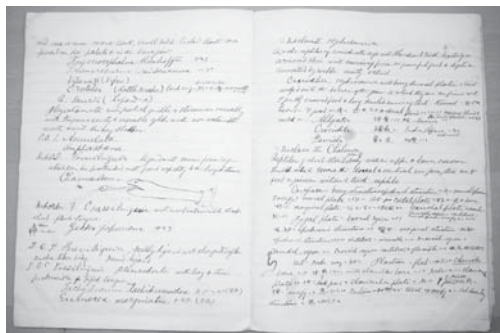
量学) といった、札幌農学校を卒業し、農学校の教授・助教授を担っていた教員の講義内容を記録した資料です。教育機能や人材育成の側面から札幌農学校を歴史的に位置付ける場合

や、北海道史や植民政策史において札幌農学校が果たした役割を検討する際に、重要な資料となります。

大学文書館では、「平塚直治関係資料」を大切に保存し、展示などで広く

紹介するとともに、利用者に閲覧いただけるように準備を進めていきます。

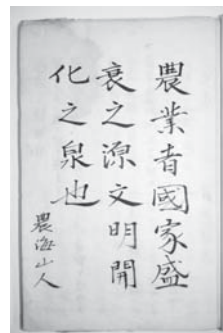
(大学文書館)



橋本左五郎講義「動物学」の受講ノート(1895年頃)



平塚直治による雑誌見聞「農海」



澁谷紀三郎旧蔵写真を大学文書館で再受贈

7月24日(木)、大学文書館では、澁谷紀三郎旧蔵写真145点を、ご令孫である澁谷紀直氏よりご寄贈いただきました。当日は澁谷氏と共に、澁谷重紀氏、霜三雄氏・真喜子夫人が来館され、大学文書館所蔵資料の中から澁谷紀三郎に関する在学資料を見学いただきました。

澁谷紀三郎(1883-1951)は、1902(明治35)年札幌農学校予修科に入学、1904(明治37)年予修科を修了後、札幌農学校本科に進学しました。本科では、農芸化学を専攻し、大島金太郎教

授に師事しました。1908(明治41)年7月、東北帝国大学農科大学卒業後、農科大学副手を経て、台湾総督府農事試験場技師(後に、中央研究所農業部・農業試験所技師)となりました。1929(昭和4)年には台北帝国大学教授に就任し、理農学部農芸化学第一講座を担当するとともに、中央研究所農業部長・農業試験所長の重責も担いました。

今回受贈した写真は、(1)東北帝国大学農科大学在学の頃(農芸化学科実験室、エルムの森での記念撮影)、

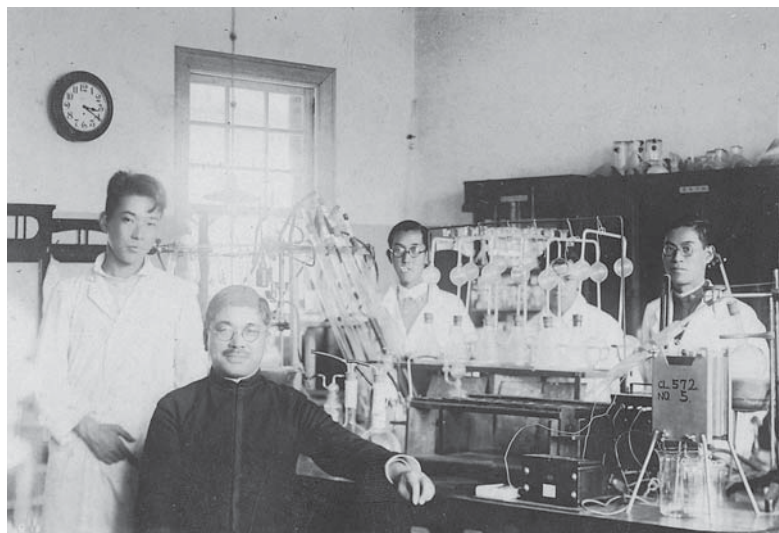
(2)台湾での勤務風景(島内・肥料試験地視察、講演会・行事、試験場・大学内での記念撮影など)、(3)台北での家庭生活風景(昭和町住宅など)から構成されています。

今後、大学文書館では、受贈資料を整理して大切に保存するとともに、デジタル化を進めて利用に供し、展示・資料見学会などでも活用していきます。

(大学文書館)



エルムの森にて(1908年頃) 学生時代の澁谷紀三郎(3列目右から3番目)



台北帝国大学理農学部農芸化学実験室にて(1930年代頃) 教授時代の澁谷紀三郎(前列)

旧制高等学校・大学予科の徽章を大学文書館で受贈

7月28日（月）、大学文書館では、宍戸昌夫氏（横浜市立大学名誉教授）より、旧制高校・大学予科の徽章35点のコレクションをご寄贈いただきました。

宍戸氏は、1935（昭和10）年北海道帝国大学予科医類に入学、1939（昭和14）年予科修了後に医学部に進学し、1942（昭和17）年第18期生として卒業されました。

この度受贈した徽章は、第一高等学校、第二高等学校、第三高等学校、第四高等学校、第五高等学校、第六高等学校、第七高等学校造士館、第八高等学校、松本高等学校、新潟高等学校、

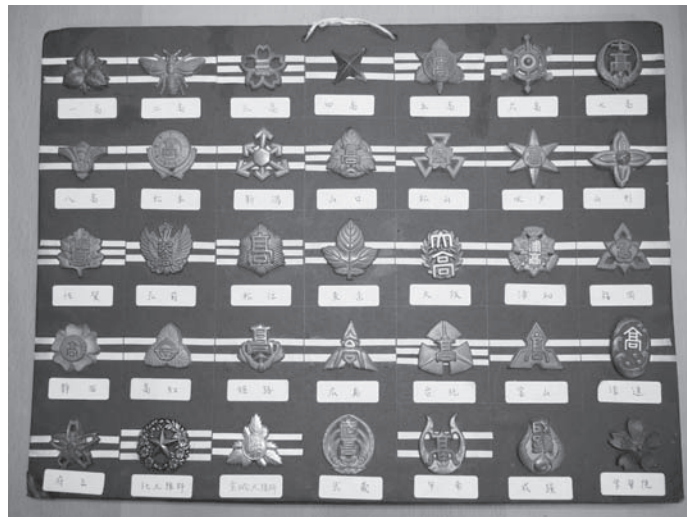
山口高等学校、松山高等学校、水戸高等学校、山形高等学校、佐賀高等学校、弘前高等学校、松江高等学校、東京高等学校、大阪高等学校、浦和高等学校、福岡高等学校、静岡高等学校、高知高等学校、姫路高等学校、広島高等学校、台北高等学校、富山高等学校、浪速高等学校、府立高等学校、北海道帝国大学予科、京城帝国大学予科、武蔵高等学校、甲南高等学校、成蹊高等学校、学習院高等科の徽章です。黒地に、各校の白線の本数も復元されて、取り付けられています。

宍戸氏からのお手紙によると、成城高等学校では学生帽を未着用のため徽章がなく、植民地下の台北帝国大学予科・旅順高等学校・京城帝国大学予科の徽章は収集が困難であり、京城帝国大学予科の徽章は戦後の複製品を入手して、それ以外のものは戦前に実際に使用されていた34点を収集して、このコレクションを成し遂げられたとのこと

です。

今後、大学文書館では、受贈資料を大切に保存するとともに、希望者には閲覧室にてご覧いただき、展示・見学会などで活用していきます。

（大学文書館）



旧制高等学校・大学予科の徽章コレクション

■お知らせ

企画展示「北方資料からみる「江戸・蝦夷・ロシア」交流展」 第1期：漂流民大黒屋光太夫の帰還とラクスマン来航 開催中

パネル展示：展示期間 2014年7月1日～2014年9月30日

関連図書展示：展示期間 2014年7月15日～2014年9月30日

附属図書館正面玄関ロビーと南棟2階オープンエリアにおいて、企画展示「北方資料からみる「江戸・蝦夷・ロシア」交流展」を開催しています。

附属図書館には系統的に集められた北海道（蝦夷）を含む北方地域の資料があり、国内でも有数のコレクションとして知られています。その中には、鎖国をしていた江戸時代後期、自らの意思とは無関係にロシアで異文化を体験し帰国した大黒屋光太夫・高田屋嘉兵衛らの足跡資料も残されています。

第1期は大黒屋光太夫に焦点をあてました。コミュニケーション能力に優れ、キリル・ラクスマンとの出会いという幸運にも恵まれ、漂流民としてロシアからの最初の生還者となることができました。

グローバル化が推し進められる現代だからこそ、辞書も文法書もない時代の異文化交流に思いを馳せ、北方資料を通してこのリアルなドラマのおもしろさを味わっていただければ幸いです。

この展示は、北方資料ワーキンググループによる企画で、展示物の作成にあたり、文学研究科の谷本晃久准教授、スラブ・ユーラシア研究センターの兎内勇津流准教授に指導を受けました。

玄関ロビーでは、パネルで展示の概要と地図などを、展示ケースでは関連する貴重な資料を展示しています。

2階オープンエリアでは、小説などを中心に関連する本をまとめて展示しています。ロビー展示を見て興味を沸いた方はどうぞ手にとってご覧ください。全て貸出可能となっています。

(附属図書館)



玄関ロビーでの展示風景



オープンエリアでの関連本展示風景

書籍『学船 北海道大学 洋上のキャンパスおしよろ丸』出版

本書では、初代「忍路丸」から最新鋭の研究設備をそなえた新船「おしよろ丸V世」までの歴史や、北洋航海で北極海へ向けた調査航海の様子、操業やロープワークなどを学ぶ学生や海洋研究に挑む研究者、船を運航する乗組員の役割などを紹介しています。同行取材した総合博物館の藤田良治助教（博物館映像学）が撮影した臨場感あふれる写真が多数掲載されており、洋上での研究や教育の様子が生き生きと伝わってきます。北極海へ向かう航海中に書かれた学生によるエッセイには、船内活動の様子や船上独特の文化が描かれています。AR技術により、iPhoneやスマートフォンで専用アプリをダウンロードし、本書をスキャンすると期間限定のおしよろ丸特典動画を視聴することも可能です。総合博物館ミュージアムショップ等で販売中です。

（総合博物館）

1909年竣工の初代「忍路丸」から代を重ね、一世紀以上にわたり水産学部の教育と研究を支えてきた「洋上のキャンパス」を特別公開。大海原へと乗り出した乗船者達の挑戦が本書で甦る。（本書帯より）

タイトル：「学船 北海道大学 洋上のキャンパスおしよろ丸」

編著者：藤田良治、湯浅万紀子（北海道大学総合博物館）

サイズ：B5判

本文：96頁

定価：本体1,500円＋税

出版：中西出版



■レクリエーション

平成26年度学内バレーボール大会の開催

職員レクリエーション行事の一環として例年実施しているバレーボール大会を、7月14日（月）から7月29日（火）までの間、第2体育館で開催しました。

今年度も多くの職員の参加があり、活気溢れる大会となりました。

なお、結果は以下のとおりです。

（職員排球部）

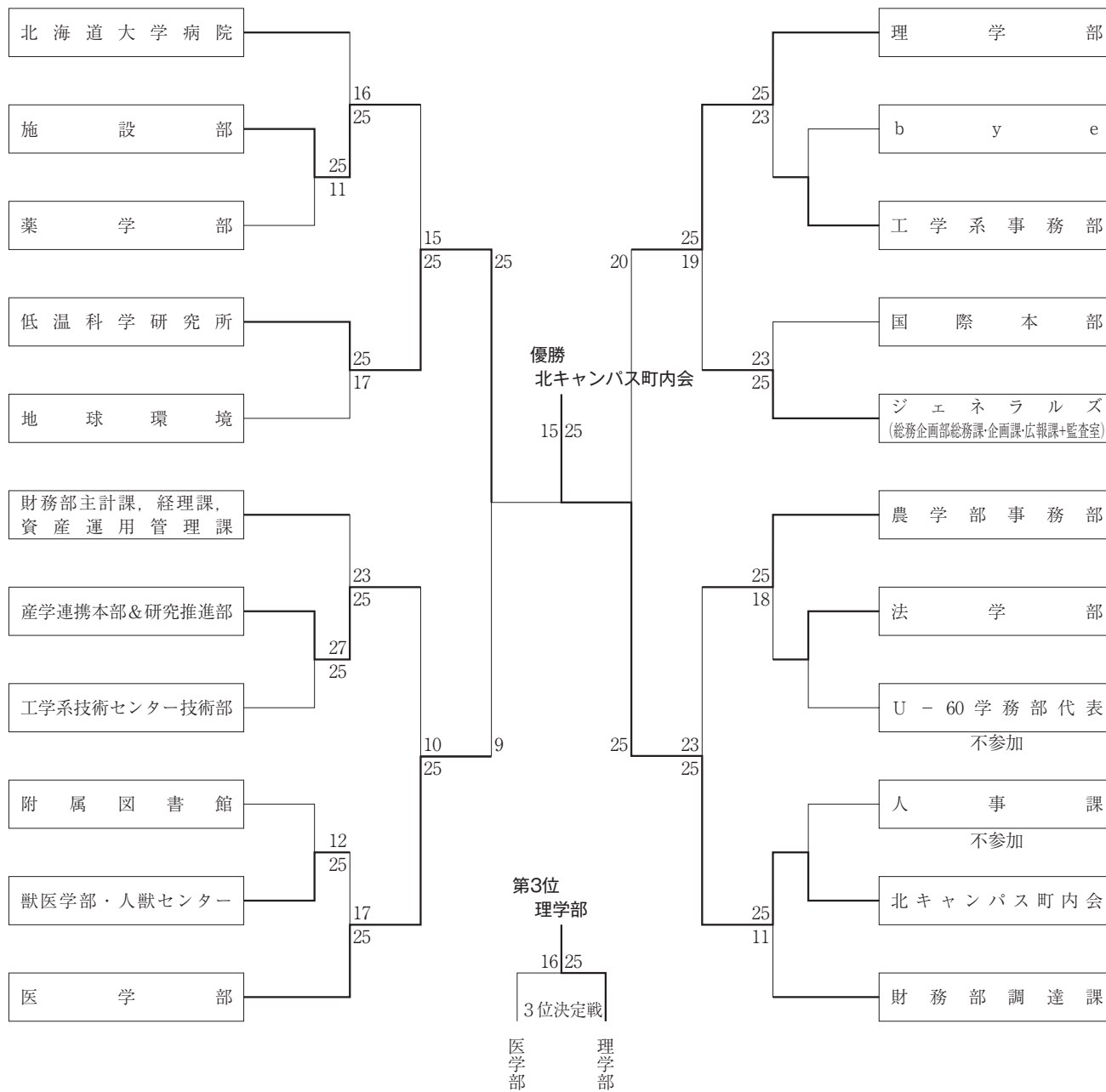
大会結果

- 優勝 北キャンパス町内会
- 準優勝 低温科学研究所
- 第3位 理学部
- 第4位 医学部



優勝：北キャンパス町内会

平成26年度学内バレーボール大会結果



準優勝：低温科学研究所



第3位：理学部

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成26年7月7日）

議案・平成27年度概算要求提出について

協議事項・北海道大学宮澤記念賞（仮称）について

- ・研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）改正に係る本学の対応について
- ・諸規則の一部改正について

報告事項・平成26年度北海道大学進学相談会について

- ・全学運用教員の実施状況報告について
-

役員会（平成26年7月15日）

議案・平成27年度概算要求提出について

教育研究評議会（平成26年7月16日）

議題・経営協議会の学外委員について

- ・北海道大学宮澤記念賞（仮称）について
- ・研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）改正に係る本学の対応について
- ・諸規則の一部改正について

報告事項・大学間交流協定の新規締結について

- ・全学運用教員の実施状況報告について
 - ・第15回北大・九大合同フロンティア・セミナーについて
 - ・平成25年度決算について
 - ・学生の懲戒について
-

役員会（平成26年7月28日）

議案・北海道大学宮澤記念賞（仮称）について

- ・研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）改正に係る本学の対応について
- ・諸規則の一部改正について
- ・平成26年度科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」への申請について
- ・外来新棟整備事業について
- ・平成26年度中期目標達成強化経費第二次決定事業について
- ・目的積立金の活用事業について

報告事項・超過勤務実績について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学における研究費の不正使用に関する規程の一部を改正する規程

(平成26年7月30日海大達第168号)

平成26年2月18日付けで「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）（平成19年2月15日文科科学大臣決定）」が改正されたことに伴い、所要の改正を行うものです。

国立大学法人産学連携本部規程の一部を改正する規程

(平成26年8月1日海大達第169号)

平成26年8月1日付けで、本学における産学連携の強化を図るため、産学連携本部の構成組織を見直すことに伴い、所要の改正を行うものです。

北海道大学病院規程の一部を改正する規程

(平成26年8月1日海大達第170号)

平成26年度診療報酬改定において、病理診断管理加算に係る施設基準に「病理診断科の標榜」が追加されたことに対応するとともに、北海道大学病院の診療機能を広く社会に知らせることを目的として、本年8月1日付けで、北海道大学病院の診療科に病理診断科を設置することに伴い、所要の改正を行うものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程

(平成26年8月1日海大達第171号)

創成研究機構評価委員会に置く分科会について、評価委員会は、その定めるところにより、分科会の議決をもって評価委員会の議決とすることができるものとするに伴い、所要の改正を行うものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

(平成26年8月1日海大達第172号)

創成研究機構共用機器管理センターにおいて、材料分析又は加工に使用する設備の追加及び削除を行うことに伴い、所要の改正を行うものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成26年8月1日海大達第173号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加及び削除を行うことに伴い、所要の改正を行うものです。

■ 研修

平成26年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

開催期間：平成26年7月15日～平成26年7月17日

開催場所：北海道大学百年記念会館大会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅職員としての立場と責務を自覚させるとともに、職務に対する知識を深め、企画力及び問題解決能力の向上を図ることを目的とする。



特別講話
(村田直樹理事・事務局長)



講義「メンタルヘルス」
(朝倉 聡医学研究科准教授，産業医)



演習・グループワーク等

(総務企画部人事課)

■表敬訪問

海外

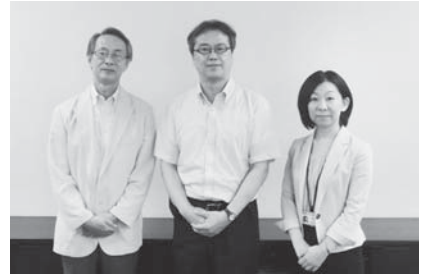
年月日	来訪者	来訪目的
26.7.9	駐日インド大使館 Deepa Gopalan Wadhwa 特命全権大使	両国の交流に関する懇談
26.7.9	駐日パキスタン・イスラム共和国大使館 Farukh Amil 特命全権大使	講演
26.7.17	在モンテリオール日本国総領事館 新井 辰夫 総領事	今後の交流に関する懇談



駐日インド大使館 Deepa Gopalan Wadhwa
特命全権大使（中央右）



駐日パキスタン・イスラム共和国大使館
Farukh Amil 特命全権大使（左から2人目）



在モンテリオール日本国総領事館
新井 辰夫 総領事（中央）

（国際本部国際連携課）

■人事

平成26年7月6日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【学術専門職】 (辞職)	POHL WARREN DAVID	国際本部学術専門職

平成26年7月9日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 (辞職)	田 中 美 咲	北方生物圏フィールド科学センター

平成26年7月19日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：平成28年7月18日まで) (期間：平成28年7月18日まで)	秋 庭 英 人 山 崎 隆 志	北海道経済産業局長 北海道新聞社論説主幹

平成26年7月22日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 人獣共通感染症リサーチセンター助教	大 森 亮 介	採用

平成26年7月23日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院工学研究院教授	渡 邊 康 正	文部科学省大臣官房付

平成26年7月25日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	黄 淨 愉	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教

平成26年7月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	間 部 克 裕	北海道大学病院助教
【技術職員等】 (辞職)	谷 川 正 洋 川 村 まりあ 浦 波 唯 史	水産学部附属練習船うしお丸二等機関士 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院診療支援部理学療法士
【嘱託職員】 (辞職)	松 本 順 子	研究推進部外部資金戦略課

平成26年8月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院保健科学研究院教授 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授	惠 淑 萍 外 山 洋 一 Jackson David Charles Brown Lorena Elizabeth Hall William Walmsley	大学院保健科学研究院准教授 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課課長補佐 採用 採用 採用
【准教授】 大学院獣医学研究科准教授 北海道大学病院准教授	岡 松 正 敏 根 岸 淳	大学院獣医学研究科助教 北海道大学病院講師
【講師】 大学院保健科学研究院講師	吉 田 繁	大学院保健科学研究院助教
【助教】 水産学部附属練習船うしお丸助教 北海道大学病院助教	阿 部 拓 三 天 野 虎 次	水産学部附属練習船おしよろ丸助教 採用
【技術職員等】 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院診療支援部主任臨床検査技師	成 田 あゆみ 安孫子 光 春	採用 採用
【特任助教（再雇用）】 水産学部附属練習船おしよろ丸特任助教	木 村 修	水産学部附属練習船うしお丸特任助教

新任教授紹介

平成26年7月23日付



大学院工学研究院教授に

わたなべ やすまさ
渡邊 康正 氏

工学系教育研究センター
国際性啓発教育プログラム開発部

生年月日

昭和40年2月4日

最終学歴

コーネル大学大学院公共政策学専攻修士課程修了(平成8年8月)

専門分野

国際性啓発教育, 科学技術政策

平成26年8月1日付



保健科学研究院教授に

けい しゅくへい
惠 淑萍 氏

保健科学部門病態解析学分野

最終学歴

中国西安医科大学医学系卒業
博士(医学)(北海道大学)

専門分野

臨床化学・分析化学



公共政策学連携研究部附属
公共政策学研究センター教授に

とやま よういち
外山 洋一 氏

エコ・ウェルフェア部門

生年月日

昭和43年8月18日

最終学歴

東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了(平成17年3月)
修士(法学)(東京大学)

専門分野

環境政策学



国際連携研究教育局教授に

デイビッド チャールズ ジャクソン
David Charles Jackson 氏

人獣共通感染症グローバルステーション
メルボルン大学ユニット

生年月日

1948年11月7日

最終学歴

オーストラリア国立大学大学院博士課程修了(1976年)
Ph.D.(オーストラリア国立大学)

専門分野

免疫学, 免疫化学, ポリマー化学, ワクチン設計



国際連携研究教育局教授に

ロリーナ エリザベス ブラウン
Lorena Elizabeth Brown 氏

人獣共通感染症グローバルステーション
メルボルン大学ユニット

生年月日

1954年2月18日

最終学歴

メルボルン大学大学院博士課程修了(1981年12月)
Ph.D.(メルボルン大学)

専門分野

免疫学, ウイルス学, ワクチン学



国際連携研究教育局教授に

ウィリアム ウォームスリー ホール
William Walmsley Hall 氏

人獣共通感染症グローバルステーション
アイルランド国立大学ダブリン校ユニット

生年月日

1949年4月3日

最終学歴

北アイルランドクイーンズ大学大学院博士課程修了(1974年9月)
Ph.D.(クイーンズ大学)

コーネル大学医学部修了(1984年9月)

MD(コーネル大学)

専門分野

感染症学

訃報

情報環境推進本部情報推進課

係長 伏見 美徳 氏

(享年51歳)



情報環境推進本部情報推進課係長の伏見美徳氏は、平成26年7月7日に病気のため急逝されました。

ここに、生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和37年9月28日北海道当

麻町に生まれ、北海道札幌啓成高等学校を卒業し、昭和56年4月に北海道大学医学部附属病院医事課に文部事務官として採用されました。

その後、経理部情報処理課を経て、農学部主任に昇任、平成14年4月1日には旭川工業高等専門学校庶務課専門職員に昇任され、平成17年4月に北海道大学へ戻られた後は医学部、企画部、工学部の係長を経験し、平成24年10月1日より現職に就かれ、本学の情報推進業務に専念されておりました。

同氏は、採用当時から本学の職員野球部「オール北大」に所属し、学生時代の経験と頑健な身体を活かし主力として活躍されました。また、北大雪合戦部「余暇研究会」の選手として昭和

新山国際雪合戦に参加されるなどスポーツに精力的に励まれ、さらに、映画鑑賞、スポーツ観戦、旅行など趣味も多彩であり、特にパソコンやソフトウェア関係に精通した知識を広く持っていたことが職務にも大いに反映され、同僚や後輩達の相談を受ける場面も見受けられました。

同氏は、急逝される直近の勤務日まで変わらず仕事をしており、突然の訃報に、ご遺族の悲しみも計り知れず、誠に惜しまれてなりません。

ここに長年にわたるご労苦とご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

(情報環境推進本部情報推進課)

訂正

北大時報No.724（平成26年7月）P.12の記事に一部誤りがありましたので、以下のとおり訂正するとともに、関係者の皆様にお詫び申し上げます。

平成25年度北海道大学外国人留学生後援会決算書

1. 収入の部 会費の決算額

（誤）3,612,600 →（正）3,216,600



北海道大学
ホームカミングデー 2014
2014.9.27 SAT *Be ambitious again!*

会場 北海道大学札幌キャンパス 主催 北海道大学 共催 北海道大学連合同窓会

公式 HP : <http://www.hokudai.ac.jp/home2014/>

 **北海道大学**
HOKKAIDO UNIVERSITY

北海道大学ホームカミングデーに関するお問い合わせ
北海道大学 総務企画部 広報課
受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日を除く)
TEL 011-706-2012
FAX 011-706-2092

編集メモ

●総合博物館では、先月来館者数100万人を達成しました。現在は、企画展示「学船 洋上のキャンパスおしよろ丸」を開催しています。お子様をはじめ、多くの皆様のご来場をお待ちしています。

●「ホームカミングデー2014」を9月27日（土）に開催します。多彩な行事を用意して、同窓生の皆様をお待ちしています。北大の「今」をぜひご体感ください。

◆ホームカミングデー特設サイト
<http://www.hokudai.ac.jp/home2014/>



2010.8.16 函館本線 黒松内～熱郭（黒松内町）

北の鉄道風景 17 北限の鮎釣り

清流の魚として高名な鮎の生息北限は宗谷管内の天塩川とされているが、生息数の観点で見た場合、実質的な北限は後志管内の河川となる。同管内の黒松内町を流れる朱太川は、北限の鮎釣りを楽しめる川として広く知られている。写真は黒松内町の郊外を流れる朱太川と函館本線が交差する地点である。夏空を背景に鉄橋を渡る列車を撮ろうと思い、撮影

準備を済ませて列車の通過を待っていたところ、2人の鮎釣り師が上流側から釣り下ってきた。鉄橋のすぐ側で釣り師たちが鮎釣りを再開した直後に、小樽行き単行列車が駆け抜けていった。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑧ No.725 平成26年8月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html